

みずほマーケット・トピック (2017年9月22日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は FOMC 後に急上昇する展開。週初 18 日に 110 円台後半でオープンしたドル/円は、一時週安値となる 110.90 円をつけたが、東京祝日で市場参加者が限られる中、前週末のドル買いの流れを引き継ぎ 111 円台前半まで上昇。イングランド銀行(中央銀行、BOE)のカーニー総裁のハト派的な発言や、カナダ銀行(中央銀行、BOC)のレーン副総裁のカナダドル高に懸念を示す発言を受け、債券やカナダドルに対してドルが強含む展開を背景にドル/円は 111 円台後半まで続伸した。19 日は、米 8 月住宅着工件数が 2 か月連続で減少したことを材料に一時 111 円台前半まで値を下げたが、米共和党のポブ・コーカー上院議員の「税制改革につき共和党内で暫定合意が得られた」との発言に 111 円台後半まで反発。20 日は 111 円台半ばで安定推移したが、FOMC の結果発表直後は政策金利の据え置きに反応し 111 円台前半まで急落。しかし、政策メンバーによる金利見通し(ドットチャート)で年内あと 1 回、2018 年は 3 回の利上げシナリオが維持されたことがタカ派と捉えられると、ドル/円は 112 円台半ばまで急伸した。21 日は日銀金融政策決定会合にて現状の金融政策の維持が決定されたものの材料視されず、FOMC 後のドル買いの流れを受けドル/円は週高値となる 112.72 円をつけた。その後、米大手格付け会社が中国のソブリン格付けを引き下げたことや、トランプ米大統領が北朝鮮に対する追加制裁の可能性を示唆すると、リスク回避ムードの強まりから 112 円台前半まで下落した。引けにかけては 112 円台半ばまで反発し、本日は 112 円台前半へと小緩んでいる。
- 今週のユーロ/ドル相場は上下に激しい展開となった。週初 18 日に 1.19 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、材料難の中で 1.19 台半ばを挟んで方向感に欠ける値動きとなった。19 日はユーロ/円が上昇する動きにユーロ/ドルは 1.20 近辺まで連れ高。米共和党議員からの税制改革に前向きなコメントを受け 1.19 台半ばまで下落したが、底堅いユーロ/ポンドを横目に 1.20 近辺まで反発した。20 日は FOMC における政策金利の据え置きに反応して一時週高値となる 1.2035 をつけたが、ドットチャートで従来の利上げシナリオが維持されるとドル買い優勢となりユーロ/ドルは週安値となる 1.1861 まで急落した。21 日は上値重く推移していたが、メイ英首相が EU 離脱に伴う清算金の支払いを受け入れたとの報道を受け、ハード・ブレクジットに対する懸念が後退すると 1.19 台半ばまで上昇し、本日も同水準で小動きとなっている。

今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		9/15(Fri)	9/18(Mon)	9/19(Tue)	9/20(Wed)	9/21(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.95	111.18	111.49	111.60	112.55
	High	111.33	111.66	111.88	112.53	112.72
	Low	109.55	110.90	111.21	111.11	112.14
	NY 17:00	110.83	111.56	111.60	112.20	112.49
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1922	1.1937	1.1960	1.1992	1.1874
	High	1.1988	1.1969	1.2006	1.2035	1.1954
	Low	1.1902	1.1915	1.1951	1.1861	1.1866
	NY 17:00	1.1942	1.1955	1.1995	1.1896	1.1942
ユーロ/円	東京9:00	131.06	132.72	133.33	133.83	133.61
	High	133.07	133.42	134.16	134.10	134.37
	Low	130.64	132.62	133.27	133.27	133.52
	NY 17:00	132.41	133.35	133.86	133.45	134.33
日経平均株価	19,909.50	19,909.50	20,299.38	20,310.46	20,347.48	
TOPIX	1,638.94	1,638.94	1,667.88	1,667.92	1,668.74	
NYダウ工業株30種平均	22,268.34	22,331.35	22,370.80	22,412.59	22,359.23	
NASDAQ	6,448.47	6,454.64	6,461.32	6,456.04	6,422.69	
日本10年債	0.03%	0.03%	0.04%	0.03%	0.04%	
米国10年債	2.20%	2.23%	2.24%	2.27%	2.28%	
原油価格(WTI)	50.44	50.35	49.90	50.69	50.55	
金(NY)	1,320.16	1,307.53	1,311.10	1,301.18	1,291.18	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週にかけては、24日(日)にドイツで連邦議会選挙が行われる。選挙ではメルケル首相率いるキリスト教民主同盟(CDU)の勝利がほぼ確実視されており、波乱の少ない選挙となりそうである。焦点となるのは連立を組む政党と連立工作に要する時間などが、過去4年間を含むメルケル政権12年のうち8年間連立を組んできた、社会民主党(SPD)との大連立を組むことが最も可能性の高いシナリオとされている。なお、今回は極右政党「ドイツのための選択肢(AfD)」が初めて議席を確保する見通しであるが、他のすべての政党がAfDとの連立を排除しており、選挙結果に対する市場の反応は限られそうだ。
- 米国では26日(火)に8月新築住宅販売の発表がある。関連統計では、住宅ローン申請件数は月次平均でみると2か月連続で減少したものの、8月NAHB住宅市場指数は3か月ぶりに上昇した。住宅ローン金利も低下しているほか、前月の大幅減(前月比-9.4%)の反動もあり、8月の新築住宅販売は前月比+3.3%の年率+59.0万件と増加する見込みである。同日には、9月コンファレンス・ボード消費者信頼感指数の発表があるが、既に発表されている9月ミシガン大学消費者マインドは2つのハリケーン(ハービー、イルマ)の影響から低下しており、消費者信頼感指数も119.5(8月:122.9)と前月から低下する見通しである。このほか、28日(木)に4~6月期GDP(3次速報)の発表などがあるほか、金融政策に関しては、26日(火)のイエレンFRB議長の講演を筆頭に、連日FOMCメンバーの講演が予定されており、その発言内容に注目が集まる。
- 本邦では、29日(金)に8月全国消費者物価指数(CPI)、9月東京都区部CPIの発表がある。8月全国コアCPI(生鮮食品を除く総合)は、制度変更による診療代の上昇などによりコアコア部分の下押しが緩和することで、前年比+0.7%と7月の同+0.5%から加速しそうだ。同日には8月鉱工業生産(速報)も発表される。8月の製造工業生産予測調査は、前月比+6.0%と大幅増産が計画されているが、実績値は予測指数から下振れる傾向がある。経済産業省による予測指数がもつ傾向的な部分を補正した試算値は同+1.4%の増産とされる中、市場では前月比+1.9%と予想されている。

	本 邦	海 外
9月22日(金)		・ユーロ圏9月製造業、サービス業PMI(速報)
25日(月)	・7月景気動向指数(確報)	・独9月Ifo企業景況指数 ・米8月シカゴ連銀全米活動指数
26日(火)	・8月企業向けサービス価格指数	・米7月S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格 ・米8月新築住宅販売 ・米9月消費者信頼感指数
27日(水)		・米8月耐久財受注(速報)
28日(木)		・独9月消費者物価(速報) ・米4~6月期GDP(3次速報)
29日(金)	・8月失業率 ・8月家計調査 ・8月消費者物価 ・9月東京都区部消費者物価 ・8月鉱工業生産(速報) ・8月新設住宅着工	・ユーロ圏9月消費者物価(速報) ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2017年9月~)】

米FOMC(10月31日~11月1日、12月12~13日、1月30~31日)

ECB政策理事会(10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合(10月30~31日、12月20~21日、1月22~23日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2017年9月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数(8月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、8月) 米国 雇用統計(8月) 米国 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、8月) 米国 建設支出(7月)	
4 日本 マネタリーベース(8月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、8月) ユーロ圏 GDP(確報、4-6月期) 米国 労働市場情勢指数(8月) 米国 製造業新規受注(7月) 米国 耐久財受注(確報、7月)	6 日本 毎月勤労統計(7月) ドイツ 製造業受注(7月) 米国 貿易収支(7月) 米国 ISM非製造業景気指数(8月) 米国 ページブック	7 日本 景気動向指数(速報、7月) ドイツ 鉱工業生産(7月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	8 日本 国際収支(7月) 日本 GDP(確報、4-6月期) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) ドイツ 貿易収支(7月) 米国 卸売売上高(7月) 米国 消費者信用残高(7月)	
11 日本 機械受注(7月) 日本 マネーストック(8月) 日本 第三次産業活動指数(7月)	12 日本 国内企業物価(8月)	13 ドイツ 消費者物価(確報、8月) ユーロ圏 鉱工業生産(7月) 米国 生産者物価(8月) 米国 財政収支(8月)	14 日本 鉱工業生産(確報、7月) 米国 消費者物価(8月)	15 ユーロ圏 貿易収支(7月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月) 米国 小売売上高(8月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月) 米国 企業在庫(7月)	
18 日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、8月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(7月)	19 ユーロ圏 経常収支(7月) ドイツ ZEW景況指数(9月) 米国 住宅着工(8月) 米国 FOMC(~20日)	20 日本 貿易収支(8月) 日本 日銀金融政策決定会合(~21日) 米国 中古住宅販売(8月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月) 米国 景気先行指数(8月)	22 ユーロ圏 製造業PMI(速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、9月)	24 フランス 上院議会選挙 ドイツ 連邦議会選挙
25 日本 景気動向指数(確報、7月) ドイツ IFO企業景況指数(9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(8月)	26 日本 企業向けサービス価格(8月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(7月) 米国 新築住宅販売(8月) 米国 消費者信頼感指数(9月)	27 米国 耐久財受注(速報、8月)	28 ドイツ 消費者物価(速報、9月) 米国 GDP(3次速報、4-6月期) 米国 個人消費(3次速報、4-6月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、4-6月期)	29 日本 失業率(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 全国消費者物価(8月) 日本 東京都部消費者物価(9月) 日本 鉱工業生産(速報、8月) 日本 新設住宅着工(8月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月)	

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
[資料]ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2017年10月)

月	火	水	木	金	週末
<p>2</p> <p>日本 日銀短観(7-9月期) 日本 自動車販売台数(9月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、9月) ユーロ圏 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(9月) 米国 建設支出(8月)</p>	<p>3</p> <p>日本 マネタリーベース(9月)</p>	<p>4</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(確報、9月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(9月)</p>	<p>5</p> <p>ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(9月7日開催分) 米国 貿易収支(8月) 米国 製造業新規受注(8月) 米国 耐久財受注(確報、8月)</p>	<p>6</p> <p>日本 毎月勤労統計(8月) 日本 景気動向指数(速報、8月) ドイツ 製造業受注(8月) 米国 雇用統計(9月) 米国 失業率(9月) 米国 卸売売上高(8月) 米国 消費者信用残高(8月)</p>	
<p>9</p> <p>日本 体育の日 ドイツ 鋳工業生産(8月)</p>	<p>10</p> <p>日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(9月) ドイツ 貿易収支(8月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)</p>	<p>11</p> <p>日本 機械受注(8月) 米国 FOMC議事要旨(9月19-20日開催分)</p>	<p>12</p> <p>日本 貸出・預金動向(9月) 日本 第三次産業活動指数(8月) ユーロ圏 鋳工業生産(8月) 米国 生産者物価(9月)</p> <p>ワシントン(米国) G20財務相・中央銀行総裁会合(～13日)</p>	<p>13</p> <p>日本 国内企業物価(9月) 日本 マネーストック(9月) ドイツ 消費者物価(確報、9月) 米国 消費者物価(9月) 米国 小売売上高(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月) 米国 企業在庫(8月)</p>	
<p>16</p> <p>日本 鋳工業生産(確報、8月) ユーロ圏 貿易収支(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月)</p>	<p>17</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(確報、9月) ドイツ ZEW景況指数(10月) 米国 鋳工業生産(9月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(8月)</p>	<p>18</p> <p>米国 住宅着工(9月) 米国 ページュブック</p>	<p>19</p> <p>日本 貿易収支(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月) 米国 景気先行指数(9月)</p>	<p>20</p> <p>ユーロ圏 経常収支(8月) 米国 中古住宅販売(9月)</p>	
<p>23</p> <p>日本 景気動向指数(確報、8月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)</p>	<p>24</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(速報、10月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、10月)</p>	<p>25</p> <p>ドイツ IFO企業景況指数(10月) 米国 耐久財受注(速報、9月) 米国 新築住宅販売(9月)</p>	<p>26</p> <p>日本 企業向けサービス価格(9月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)</p>	<p>27</p> <p>日本 全国消費者物価(9月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 米国 GDP(1次速報、7-9月期) 米国 個人消費(1次速報、7-9月期) 米国 PCEコアデフレーター(1次速報、7-9月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)</p>	
<p>30</p> <p>日本 日銀金融政策決定会合(～31日) ドイツ 消費者物価(速報、10月) 米国 個人消費・所得(9月)</p>	<p>31</p> <p>日本 失業率(9月) 日本 家計調査(9月) 日本 鋳工業生産(速報、9月) 日本 新設住宅着工(9月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7-9月期) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、10月) 米国 雇用コスト(7-9月期) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) 米国 FOMC(～11月1日)</p>				

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年9月21日	FOMCを終えて～短期は強気、長期は弱気金利見直し～
2017年9月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年8月分)
2017年9月15日	衆議院解散・総選挙の為替、日銀総裁人事への影響などについて
2017年9月14日	週末版
2017年9月13日	日銀金融政策決定会合プレビュー～総括的「再」検証も視野に～
2017年9月12日	ユーロ圏金融状況指数(MCI)に見るユーロ高の影響などについて
2017年9月11日	クーレ理事発言の真意～ユーロ高はもう看過できない～
2017年9月8日	円相場の基礎的需給環境～ドルインデックス半値押しで思うこと～
2017年9月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～解せないユーロ買い～)
2017年9月6日	タカ派の劣勢が強まるFOMC～フィッシャー辞任を受けて～
2017年9月5日	追い込まれる日銀～倒錯した政策運営の現状・展望～
2017年9月4日	ECB政策理事会プレビュー～テーパリングまで至るのか？～
2017年9月1日	週末版
2017年8月30日	ユーロ買いに対する現状認識について
2017年8月29日	メインシナリオへのリスク点検～急浮上してきた地政学リスク～
2017年8月28日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	ジャクソンホール講演～イエレン・ドラギ講演のレビュー～
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分)～強まる為替への問題意識～)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて～疑われるフィリップス曲線～
2017年8月16日	17年上半期の対米証券投資～下半期に向けてのみどころ～
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について～NY連銀消費者調査～
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリー取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計～加速しない賃金と伸び悩む「質」～
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状～フラット化して下方シフト～)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想～OECD景気先行指数を通じて～
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想～日銀議事要旨が示唆する戒め～
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状～調整は始まったばかり～
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検～新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」～)
2017年7月27日	FOMCを終えて～後任人事を見据えてハト派化も？～
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方～シントラ発言の火は消せず～
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて～次の論点は外交的視点～)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について～投機筋、PPP、金利差～
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー～「火に油」を避けるべく……～
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について～現状の「異常さ」を見つめ直す～)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて～花道の正常化は続く模様～
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか？
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場の基礎的需給環境～円キャリーの兆候はあるか？～
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ドラギ総裁はしくじった模様～)
2017年7月6日	FOMC議事要旨～正常化は資産バブル対応？～
2017年7月5日	ECB版テーパ・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方～「正常化」ブームは流れを変えるのか～
2017年7月3日	都議選の影響を考える～新しいリスクの浮上～
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～
2017年6月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月23日	ブラットECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月22日	週末版
2017年6月21日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトランプトレード～
2017年6月19日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月16日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月15日	週末版
2017年6月14日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月13日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月12日	盛り上がりえない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月9日	ECB政策理事会～「露払い」としてのFG文言修正～
2017年6月8日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なキャンブル」の成れの果て～)
2017年6月7日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月5日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月2日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月1日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年5月29日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～
2017年5月26日	メインシナリオのリスク点検～目立つ円高リスク～
2017年5月25日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて～依然、埋まらない日米物価格差～)
2017年5月24日	FOMC議事要旨を受けて～株価は耐えられるのか？～
2017年5月23日	相次いで弱体化するFRB高官～動揺する唯一の支え～
2017年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年4月分)
2017年5月19日	メルケル首相発言を受けて～異形のドイツがすべきこと～
2017年5月17日	ドル相場の現状認識～4月分REERの公表を受けて～
2017年5月16日	週末版
2017年5月15日	ドルインデックスの急落を受けて
2017年5月12日	ユーロ相場の現状について～投機買い持ちでも上がらず～
2017年5月11日	イタリアG7を終えて～「量」か「価格」か「説得」か～
2017年5月10日	週末版(欧州委員会春季経済予測を受けて～今後心配な「スラックの格差」～)
2017年5月9日	円相場の基礎的需給環境～様変わりする景色～
2017年5月8日	米インフレ期待低迷が映す米経済への過信
2017年4月28日	米商務省声明が予感させる「理不尽な円高」
2017年4月27日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は引き締めが濃厚～)
2017年4月26日	フランス大統領選挙を受けて～おさらすべきフランスの現状～
2017年4月25日	ECB理事会プレビュー～フォワードガイダンス撤廃報道について～
2017年4月24日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年3月分)
2017年4月23日	メインシナリオのリスク点検～燃る「第二次ブラザ合意」疑惑～
2017年4月22日	フランス大統領選挙第1回投票～終わらない政治リスク～
2017年4月21日	週末版(ECB理事会プレビュー～争点はフォワードガイダンスの取り扱い～)